

- (4) 限界の明るさについての基礎的な実験および、単に一つの光源でなく、大都会のような無数の光のある場合の視程の理論および観測方法などについて航空の安全からは是非とも開発しなければならない。
- (5) 夜間の視程観測は昼間より大きいと報告(橋本・鈴木 1961)されているが、この原因について更にはっきりすべきである。光源の明るいものを選んでいるか、または E_v が今迄に考えられているより小さいか、視程の理論の不完全な影響(視野の中の他の光源の存在の影響)がどの程度になるかを明らかにするため(4)にのべた基礎実験をどうしても行う必要があることを指摘したい。
- (6) 夜間観測は透過率計などの計器により、気象学的視程つまり日中と同じ視程を観測することが最も混乱がないと考える。アメリカ式の航空気象観測で採用されている25燭光の光源の見える距離を夜間視程として透過率と視程の関係を示しているものを利用することに

ついては、特別な対象距離たとえば 1 mile 付近の視程をのみ対象とする場合をのぞき、一般に使用するのは混乱をまねく恐れがある。

謝 辞

この草稿を御一読下され、多くの不備の点を指摘いただいた測候課長 木村博士と滝沢補佐官に厚くお礼申し上げます。なお貴重な資料に便宜をいただいた東京航空地方気象台観測課長、橋本梅治氏および観測課、調査係長鈴木義夫氏に厚くお礼申し上げます。

参 考 文 献

- 1) 橋本梅治 (1961) 大気汚染と視程, 気象研究ノート, Vol 12, No. 2.
- 2) Guide to Meteorological Instrument and observing Practices, second edition 1961, WMO No. 8, TP 3.
- 3) R. Dickson (1961) Computation of visual range in fog and low clouds, AF 19 (604)-7333 Project No. 8641.

昭和38年度第2回日本気象学会九州支部講演会および西部管区気象研究会

期 日 昭和38年10月10日~11日

会 場 福岡市草香江2丁目 那の津荘

講 演 題 目

第1日 午前

1. レーダーエコーによる台風の種類
名 瀬 今門 宗夫
2. 亜熱帯逆転の解析
〃 今門 宗夫
3. 季節風に伴う線状エコーの解析
〃 井田秀治, 田尻直信
4. レーダーによる離島の降雨予報
〃 レーダー係
5. 九州南部地方の岬の風
鹿児島 長田英二, 堤 良造
6. オゾン量とジェット気流との関係
〃 児玉 正利
7. 桜島火山の爆発活動と火山性微動
〃 東谷 幸男
8. 阿蘇火山の地盤傾斜と噴出予知(第2報)
阿蘇山 野田義男, 高橋 計
9. 南九州の有感地震の一調査 宮崎 安井 豊
10. 屋久島における有感地震の一調査
屋久島 長友 久雄

第1日 午後

11. レーダーの天気予報への利用法(第2報)
長崎 植木九州男
12. 昭和36, 37年の諫早付近の大雨(第2報)
〃 尾崎 康一
13. 強雷と集中豪雨の予報および観測資料
福岡 山田 三朗

14. 大雨エコーの盛衰
〃 山中 陸男
15. 豪雨による植林地の崩壊について
佐賀 内田 英俊
16. 日射計の係数変化について 福岡 鹿谷 健一
17. 長崎県における異常乾燥注意報の基準
長崎 尾崎 康一
18. 阿蘇山の気象資料の天気予報への利用
熊本 中西 弘
19. 昭和38年7月の集中豪雨
〃 古閑 賢一
20. 大分県における暖候期の大雨
大分 笠村 幸夫
21. 薄暮およびやみ夜の明るさについて
宮崎 鷓木 稔
22. 東海における植物プランクトンの分布と海況との関係
長崎 朝岡 治

第2日 午前

23. 桜島火山の開口期における微動と爆発
鹿児島 志賀 正信
24. 山口県西部における朝風の観測
豊北高校 高橋 茂
25. 九州の降雨量と太陽黒点数
西日本協会 毎熊 安市
26. 沖永良部における不安定線
沖永良部 木ノ脇勝哉, 村山武夫
27. 山口県の高潮
下関 服部 徳一
28. 山口県の大雪と災害
〃 久永八州夫
29. 山口県の異常低温と災害
〃 兼田 豊
30. 有明の霧について
熊本 岡部 正徳